

女
隷
人
身
強
制
マ
ウ
メ
お
し
あ
き
中
兼
身
買
打
集



は
な
は

俺は今、とあるお兄さんに性奴隷として飼育されています
お兄さんは俺が気持ちよくなれるよう、体をたっぷり調教してくれました



でもいつもすぐにイってしまって、プレイはうまく続きません
だから俺はいつもお仕置きされてきました
来る日も来る日も…

『長時間固定放置玩具責めの刑』

少年は手足を一緒に拘束され、股間を露にされている状態で体を固定された乳首にはローターが張り付けられており、その振動で腰の奥のほうがズクズクと熱く疼いてしまう
「う、う、う、う……これ、やだ、あっ……♡」

「じゃあ、行ってくるね 何時間かしたらちゃんと戻ってくるから」
「そうやって男は少年のアナルに器具を挿入する」
「ひっ……!?!? やっ 待って、え! やだ、お願い! 行かないで……っ」



返事は聞こえず、部屋にはローターの機械音が響くのみだ

少年は乳首への刺激に耐えられず、

「あっ、!っんうっ♡」

すると、いいところをピッタリと捉えた先端部分が

そこをグリグリと押し込んでいく



「うあああっ...っ♡っあっ、あっ...ああんっ♡」

中を締め付けるたびにぐりっ、と中が押されては

その反動で器具が引き戻り、また先端に前立腺を強く押し込まれる

「やつ...あ、とまんや、」

ぐりっ♡ぐりっ♡ぐりっ♡ぐりっ♡

「あっああ...あっ♡、ひっ♡ あ、またいつちや、ああああっ...!!」

快樂の波に合わせ自分で前立腺をリズム良く圧迫してしまい、しばらくの間イキ続けてしまった



長い時間が経ち、メスイキしすぎて
体の感覚はおかしくなっていた
今自分がイっているのかどうかもよくわからない
「ああっ！たすけて、えっ♡♡♡ごじゅじんさまあっ……!!」



少年の体力がなくなりかけた頃、助けを求めるとは裏腹に、
突然器具の先端部分が振動しながら自動で前後左右に激しく揺れ始めた
「あっ!?!?ああっ♡なにっこれえ、っ!?!」



ヴィーローツ、ヴィーローツ……！
それは遠隔で動かすことができる電動バイブであった
ただ挿れられているだけでもイキ続けていたというのに、
追い打ちをかけるように前立腺を虐められる



「あああッッッ……！やだっ、壊れるううっ……！」
バイブは不規則な動きでそこをひたすら抉り、苦しいほどの絶頂地獄を与え続けた
あくまでもお仕置きであることを忘れてはいけぬのだ

「……あつ、……うぐつ……!っひ……」
男が戻った時、少年の周りには何かしらの液体でぐちゃぐちゃになっていた
「こんなに汚して、悪い子だなあ」



長時間経ってもなお、バイブの先は

少年の前立腺をしっかりと捉えた状態で暴れ続けている

「あああつ……!ごしゅじんさま、はやく!とってくらさ、ああ……!」

許して、ちゃんとっいうこと聞く、からあつ……!」

「ちゅ……」

男の体力が尽き、肉棒が勢いよく抜かれたと思ったら
間髪入れずに次の男のものが体内に入ってくる
1秒も全力ピストンが止まることはない

今度は腰を落とされ、ピンポイントで前立腺を狙われそこを押しつぶされた
男は少年の尻の上でジャンプするように体重を乗せてずんっ!ずんっ!と突き下ろす



「アッ、ああっ!!!アああ!あっ!!!!!!」

「俺達もう2週目だから、皆お前の気持ちいとこ見つけちゃったよ」

「やああっ、もうっそこ!!!だめ、え!!!、こわがないでえっ!!!」

ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!ドチュッ!
♡♡♡

じきに遅れてやってきた二人の男のものに対し、ほかの者達は驚愕した

「うわ、えっぐw」

「これはさすがに壊れるだろ」

ズ...

はっちゃん

ほちゅっ

おちゅっ

よちゅっ

ちゅっ

ズ

ゼウ

はっ

はっ

はっ

その男の肉棒には、挿入した時にイイところにあたるよう

いくつものパールが埋め込まれていた

「さ、おっきいパール入りのおじさんちんぽで、そのかわいい前立腺破壊してあげるよ」

「.....っ!!!!!!」

激しく翳られ続けた少年のアナルは棒状の形を覚えて拡がり、ひくひくと痙攣し続けていた

「結構ガバガバにしちまったなあ」
「退屈になってきたし、そろそろアレやるか」

「やだっ…もうやめて…え…っ
戻んなくなっちゃううっ……………!!」

はい

いっ
いっ
いっ

はあっ

ず

ひく

ひく…

「暴れる力残ってんならトぶまでイキ狂ってくれや」

「大人しくしろっ! そっち押さえてろ」

少年は僅かな力で抵抗するが大勢の男に押さえつけられ、少しももがくことができなくなった

中を思いっきり広げられ、うまく息ができない
直腸の中が2本の肉棒でギチギチに詰まっている
穴が元の形に締まろうとして、めりめりと悲鳴を上げる感覚がした

「意外と動けるな」

「すげえ、キツキツだw」

やがて二本の肉棒が不規則に出たり入ったりしてくる

少年は悶絶し身をよじるが、体をがっちり抑え込まれて逃げることはできない



『亀頭磨き&強制大量噴水の刑』

少年は椅子の上で体を拘束されていた
しかしいつもと違って特に腰回りをきつく拘束されており、
少しも腰をずらせない

「やだっ、いやだあっ……!!!」
「お願い、それだけはあ……っ!!!」

はまっ

はま

男は大量のローションを用意してお仕置き準備を進めている
少年はついさっき男の手によって射精させられたばかりだというのに、
これから自身に何が起るかを推測してひどく拒んだ
「なんでもするからあっ!!!それだけは……!!!お願いしますっ!!!」
「よしよし、たくさん亀頭ごしごししてあげるから
いっ……っぱいお潮吹こうな♡」



『アナル拡張破壊の刑』

少年はまた腕を縛られ、男に向かって尻を突き出すように指示された
何も言われなくともそこをめちゃくちゃに虐められるのだと理解でき、身を震わせる



男はアナルビーズを取り出すが、
それは少年が想像したものよりもはるかに大きいものだった

「一つ目の球が入り口に押し付けられる」

「うう、うう……うう……うう……!!」

「もっと力抜かなきゃ入んないよ？ほら、深呼吸して」

「ん、ツぐううう……、んあ、ああ……ツ……!!」

入り口は球の侵入を拒み続けていたが、球の直径が一番大きいところを超えるとぬぼんっ♡、と自ら球を吸い込んでいった



みち…

くろ

くろ

散々虐められた少年のアナルは括約筋が言うことを聞かなくなり、
穴が開きっぱなしになってしまった

男は腕に黒い手袋を嵌めると、簡単に指を3本ほどアナルに飲み込ませる
「もったとかわいいおまんこにしてあげる
ゆっくり入れるからね」

んっ...

んっ...

んっ...

ずぷ...っ

「ッ...ー...、う、ぐッ、あ...うっつ...!!!!!!」

男は5本の指をすぼめて、ゆっくりと掌全体を回転させながら中に押し込んでいく
少年のアナルは入り口の皺を必死に伸ばしながらも、
大きな掌を腕の部分までぬっぷり♡と飲み込んでしまった

腕が抜けそうになるたびに汚い喘ぎ声漏れてしまう
男は入り口をめくるようにしばらく腕をピストンさせた後、突然腕を勢いよく引き抜いた
ぎゅぽんっツツツ!!!!!!
「ジン おお オツッ!!!!!!????」

「ああかわいい……っ♡ すごいよこれ、おまんこみたいにびろびろになってる♡」
「……っ……っ……っひぐっ……ううッ……!!!!!!」
男が優しく撫でるそこは大きくめくりあがり、中の真っ赤な部分を隆起させていた
少年の大事な部分は男の手によって、恥ずかしく異様な形状にさせられてしまった



「こんなエグいことされて、いっぱいイっちゃったね♡ よっ」と
ぐぼんっツツッ!!!♡♡♡
男は中を拳で抉りながら、最奥から勢い良く腕を引き抜く
「ッンおオッおッツツッ!!!♡」



太く長い腕が一気に抜かれ、中がずるると引きずり出されるような感覚に
少年は今ままで一番激しく絶頂してしまう
「……ッ……う……ッう……うっ……ッ……ッ……ッ!!!」

少年は真っ赤にめくれ上がったアナルを波打たせながら、深いイキの余韻でしばらくイキ続けた
お仕置きだというのにまたイキ癖がついてしまった
いつまで経っても少年は「悪い子だ」とお叱りを受けるのであった

END